令和元年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校　定時制

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
1	学ぶことのよろこびの実感 〔主担当〕 学力向上G	①	ＩＣＴを利活用した授業の展開	ＩＣＴの利活用により、意欲的に学習に取り組んだ生徒が Ａ：８０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	**B** (66.0%)	成　果：数値としては昨年度よりも若干向上している。ICT を効果的に活用できる場面を指導者が概ね適切に判断できていると考えられる。 課　題：わかりやすさの面では効果を上げていても、学習意欲の向上にあまり結びついていない場面も多い。 改善策：より興味を惹く ICT 教材やその活用法を研究していく必要がある。
		②	生徒の興味関心を高める授業の展開	授業に主体的に取り組んだ生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	**D** (37.1%)	成　果：中間結果（68.5%）と比べて数値が大きくダウンしている。年度後半にかけて情緒的に安定を欠いた生徒が増えてきたことが要因の一つと考えられる。 課　題：自身の体調や生活習慣、人間関係などの影響で学習へのモチベーションが低下した生徒が多かったように思える。 改善策：興味関心を高める授業の展開を模索し続けることに加え、生徒の情緒の安定に留意した指導の工夫が求められる。

学校関係者評価委員会の評価	①科目によってＩＣＴ機器の活用しやすさに差があり、教材の準備等にも労力がかかると思うが、今後も工夫しながら有効活用に努めて欲しい。 ②年度後半に生徒の欠時がかさんだことが低評価の原因となった。生徒の学習意欲は勤労意欲と密接に関連していると思う。働いて賃金を受け取り、生活を支えるという意識を持たせることが学習意欲の喚起にもつながると思う。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて今後の改善策	①有効活用できた事例等を教師間で共有しながら、いっそう有効活用できるように努める。 ②授業内容や教材開発の工夫はもちろん、就業指導や基本的生活習慣の定着の指導とも関連づけて、生徒が成就感を得られるよう指導方法の改善に努める。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
２	社会人基礎力の向上 〔主担当〕 キャリア教育G	①	社会人として求められる挨拶・言葉遣い指導	人前で挨拶や発表する場面を経験できた生徒が Ａ：８０％以上 Ｂ：６０％以上 Ｃ：４０％以上 Ｄ：４０％未満	**B**	成　果：学校行事等において、生徒一人一人が発表したり、また販売実習で挨拶する経験ができ、自信を持てた生徒が増えた。 課　題：堂々と人前で話せる生徒や販売実習でお客に声掛けできる生徒が限定されがちであった。 改善策：時と場に応じた言動ができるように、個に応じて、粘り強く指導を継続していく。
		②	時間の自己管理意識を高める指導	全授業の出席率 80%以上の生徒が Ａ：７０％以上 Ｂ：５０％以上 Ｃ：３０％以上 Ｄ：３０％未満	**D** （16.7%）	成　果：常に学級担任が本人や家庭と連絡を密に取った結果、欠席の長期化を抑えることができた。 課　題：努力を嫌い、計算して欠席や遅刻・早退する生徒が数名いた。 改善策：生活面の改善や将来を展望する意識を高めながら、欠席や遅刻をしないよう、自己管理ができる生徒を育成していく。
		③	いじめを許さない姿勢の確立	自己有用感が高まるような行事を Ａ：月１回のペースでできた Ｂ：２月に１回はできた Ｃ：年に数回できた Ｄ：できなかった	**A**	成　果：学校行事などを通して、周囲の人たちと協力しながら、自分自身の仕事を成就し、自己肯定感を持つ生徒が増えた。 課　題：個々人の特性によって、積極的に活動できない行事もあった。 改善策：生徒にとって、関心が持てる行事内容を再考する。

学校関係者評価委員会の評価	①外部に積極的に出て行く活動を行うことは、授業ではできない体験を積み、生徒に自信を持たせるためにも有意義なことだと思う。今後も継続して取り組んでほしい。 ②生徒に出席を促すために、先生方が生徒に連絡をする労力は大変だが、根気よく指導してほしい。 ③行事に出席することそのものが生徒にとっての自信につながると思うので、このような行事を継続してほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて今後の改善策	①生徒の自発的な行動を促すため、教員が生徒の行動を見越して先に動くのではなく、生徒の行動を待つ姿勢を持って指導に当たる。 ②生徒・保護者と連絡を密に取りながら、生徒が生活を自己管理できるように根気よく支援していく。 ③教員相互に協力しながら、より生徒が関心を持てるような行事内容を工夫していく。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果、課題、改善策等）
３	地域愛の育成 〔主担当〕 地域理解Ｇ	①	ふるさと学習への積極的な参加	ふるさとに関する体験学習に積極的に取り組むことができた生徒が Ａ：９０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	**B** （77.4%）	成　果：今年度の里山里海保全活動は 16 回あり、生徒の参加率は 77.4%であったが、「discover のと」部を立ち上げ生徒主体の運営体制をとった結果、自ら積極的に行動する生徒が数人いたり、働けなかった生徒がアルバイトに就けたりと効果が上がっているように思われる。 課　題：参加率が低かった原因としては活動が休日の日中に行われること、集団に馴染めない生徒の存在があると思われる。 改善策：生徒の満足度を高めるように活動を精査する必要がある。
		②	協働的に活動する場面の設定	協働的な活動を取り入れた教材を開発できた教員が Ａ：５名以上 Ｂ：４名 Ｃ：３名 Ｄ：２名以下	**C**	成　果：「discover のと」部の発足で活動に幅ができ、特に輪島市主催の「あわびまつり」と「かにまつり」への参加において生徒の自主性を引き出す活動が出来たことはかなりの効果があったと思う。 課　題：自主的に活動する生徒の人数を一人でも多くする。 改善策：生徒の満足度を高めるように活動を精査する必要がある。

学校関係者評価委員会の評価	①ふるさとに対する理解を深め、地域愛を育む活動は意味があると思う。特に今年度から新たに取り組んだ販売実習は効果的であったと思う。体験学習の内容や種類を工夫して今後も継続していくと良い。 ②例えば地元企業の見学などは生徒の就業意識を高める上でも効果的であると思う。行事の回数だけでなく、有意義な活動内容の工夫に今後も努めてほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえて今後の改善策	①活動に参加した生徒には、自発的な行動やその後の就業姿勢の改善などの効果が見られた。生徒の行事への参加を促すためにも、事前・事後学習の充実など、日々の授業と行事をより密接に関連づける工夫をしていく。 ②個々の生徒に応じたきめ細かな指導が可能であるという小規模校の利点を生かし、一人でも多くの生徒が積極的に活動できるようにという意識を共有して、すべての教員が生徒への指導に当たっていく。